



第三百三十九號

(第十二卷)

昭和七年十一月

大流星群いよいよ来る

(巻頭言)

二三年前から幾度も繰り返し記したことであるが、かのテムベル彗星に附随する獅子座の大流星群が愈々今年今月やつて來ることになった。既に、昨年十一月十七日の曉天、東部アメリカ方面に於いて此の流星群のかなり著しい先驅が現はれたのであつて、個々の星の光輝は、多く一等級を超え、數も實に毎時一百を上下する盛況であつた。今1932年は、この流星群の母體であるテムベル彗星それ自身が十二月初旬中には近日點を通過する筈であるから、此の彗星の再發見も、六十六年ぶりに、熱心に待望されてゐるわけであるが、現象の珍らしさと、其の特異性から考へて見ると、流星雨の降下こそ、全世界の學俗大衆から熱心に期待されてゐるのであつて、殊に、最も有力なる權威者たちの豫言によると、流星雨の最盛期が、わが東洋方面の早曉の時刻に當ることになつてゐる。こうした事情を考へて見ると、吾々の特權に對する此の喜悅と共に、又、觀測上の責任の重、且つ、大なるを思はねばならない。全東亞に散在する吾々の同志が此の際、絶大の努力を此の天象に傾注されんことを希望すると共に、之れが又必ず報ゐられんことを吾人は豫期するものであるが、只、何としても、われわれの力を超越するものは、天氣の好惡に支配せられる觀測者たちの運不運である。此の點のみを天に委せて、吾々は總て自身のコントロールの下にある環境を調べ、成績の萬全を策せねばならない。

中村君の死

偉才中村要君は去る9月24日突如として逝去した。吾人は只その言ふ所を知らない驚愕と悲歎とを以て此の報を、始めは怪しみ、次ぎに疑ひ、終に憤り、且つ戰いたものである——殊に、近く流星群が來り、火星が近づき、彗星や遊星の去來益々頻りなる今日を思ふが故に！